

## スポーツで広げる新たな地域づくり



### 市民サポーターとして チームを支えて下さい

CIEL BLEU 鹿屋  
まさつぐ  
**高宮 正嗣GM兼任監督**  
(鹿屋体育大学自転車競技部OB)

CIEL BLEU 鹿屋へのご声援、ありがとうございます。チームは「地域密着型として地元を元気にする」と目標を掲げ、東京五輪に向けて活動を始めました。現在、選手一人ひとりを応援し、チームとともに鹿屋を盛り上げてくださる個人サポーターを募集中です。期待に応えられるよう精一杯頑張りますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

☎CIEL BLEU 鹿屋  
☎0994-45-6162 <http://cielbleu-kanoya.com/>  
または、鹿屋市体育協会(市民スポーツ課内)

### INTERVIEW

#### 選手に直撃! 鹿屋の好きなところは?



つかごし  
**塚越 さくら**さん(24歳)  
埼玉県秩父市出身

**鹿**屋は親切で優しい方が多いと感じていますし、仲の良い人も多くて、いつも応援してもらい励みになっています。これからも、大好きな鹿屋の地で自転車競技が出来ることを、本当に嬉しく思います。応援よろしくお願いいたします。



うわの  
**上野 みなみ**さん(24歳)  
青森県八戸市出身

**市**民の方から練習中に「頑張って!」と声を掛けてもらって、皆さんのことをとても近い存在に感じています。食事も美味しく、大切なトレーニング後の食事もご褒美として楽しみにしています。鹿屋は居心地が良い所です。応援よろしくお願いいたします。

自転車競技はヨーロッパにおいて非常に盛んで、サッカー、F1と並び、3大スポーツと言われています。鹿屋市には全国屈指の強豪自転車競技部を有する鹿屋体育大学があり、黒川剛監督の指導のもと、日本代表や世界で戦える選手を多数輩出しています。しかし、鹿屋で育った選手も卒業後は海外や県外のチームに移ってしまつたため、「この現状を何とかしたい」「自転車競技で地域を活性化したい」との思いを持った人々が動き出し、今回、鹿屋市に県内初の自転車競技のプロチームが誕生しました。女子中長距離トラックチームとしては日本初となります。



#### チームエンブレム

2本の角は鹿児島と鹿屋の2つの「鹿(しか)」をイメージ。笠野原大地を黄色で表し、中央に高隈山、上に輝く星は選手のスター性と星空日本一の輝北町をイメージしている。

代表は鹿屋体育大学陸上競技部OBの若藤英二さん(47歳)。2月10日、市役所ホールで行われた記者会見と市民サポーター募集開始のセレモニーにおいて「産学官民(チーム、鹿屋体育大学、行政、市民)が連携し、世界を舞台に戦えるチームを作りたい。また、ジュニアの育成や自転車競技のメジャー化、地域の活性化などに取り組みたい」と述べられました。初年度の登録選手は、鹿屋体育大学大学院卒業予定の上野みなみさんと塚越さくらさんの2人。リオ五輪、東京五輪でのメダル獲得を目指していきます。

チーム名は「鹿屋の蒼い空」をフランス語で表した「CIEL BLEU 鹿屋」。将来、自転車競技の最高峰のツール・ド・フランスにアジアナンバーワンチームとして参戦できる日を夢見て名付けられました。

### 自転車プロチームの誕生

### シエル・ブルー CIEL BLEU 鹿屋

### 自転車ですごい挑戦



左から黒川剛鹿屋体育大学自転車競技部監督、若藤英二代表、塚越さくら選手、上野みなみ選手、中西茂市長、高宮正嗣GM兼任監督



記者会見でチーム発足の経緯を述べる若藤英二代表



チームに提供されたサポートカー(メルセデス・ベンツ日本)と競技用自転車(キャノンデール)



# 鹿屋から 世界への挑戦!!

### 施設

本年1月から供用開始された平和公園屋内練習場は、縦43m×横43mの広さに人工芝が敷いてあり、野球の内野守備練習やフットサルの練習など多目的な利用が可能です。また、アーム式ピッチングマシンやフットサルゴールなども備えています。

1月に阪神タイガースの大和選手が自主トレで使用したほか、この2か月間で、市内競技者による利用が137件、県外からの合宿者が35件と、すでに多くの人に利用されています。

同施設の完成で、本市の競技者の練習環境が整うとともに、県外からの自主トレやスポーツ合宿の誘致など、さらなる交流人口の増加が期待されます。



#### 平和公園屋内練習場

所在地/鹿屋市串良町有里4915-4  
用途/野球等練習、フットサル、ゲートボール、レクリエーション

### 国際交流

昨年、国外から200人を超える合宿者が鹿屋市を訪れました。

合宿で本市を訪れる外国人は増えており、近年では韓国、高校野球チームや、鹿屋体育大学とのつながりでカヌーやバレーボールの五輪候補の選手も訪れています。

合宿期間中は、言語や文化の違いから諸問題が発生する場合がありますが、スポーツによる交流を通じて、お互いの国の文化を理解し、尊重し合える国際感覚を持った青少年の健全育成の場として貴重な機会にもなっています。

今後は、国際的な人的ネットワークなど地域の資源を活用して、文化交流や地域の活性化につなげる取り組みが求められています。



#### 日韓カヌー合宿

12月11日~16日まで大隅湖にて開催。韓国と日本の強化選手が合同合宿を行い、鹿屋市の選手も参加

## スポーツ交流の推進

市ではスポーツの交流による地域活性化に取り組んでいます。

### イベント

昨年は、「南日本クロスカントリー大会 IN きほく」に569人がエントリーし、市外から6割を超える360人が参加しました。また、「ツール・ド・おおすみecoサイクリング大会」にも800人がエントリーし、県外から339人の参加がありました。

近年、地域活性化策として期待されているのがスポーツツーリズムです。これはスポーツに参加又は観戦することを目的とした旅行のことで、スポーツ愛好者を魅了する競技やご当地イベントを開催することによって、人が集まり地域の活性化につながります。市では、スポーツを一つのツールとして、まちづくりを推進していきます。



#### 「南日本クロスカントリー大会 IN きほく」

参加者569人(内訳:鹿屋市209人、鹿屋市を除く鹿児島県内312人、九州内41人、九州外7人)

### INTERVIEW

**昨**年で15回目を迎えた「ツール・ド・おおすみ」は、県外から多くの人を呼べる大会として成長してきました。

私たち民間団体で行うイベントの強みは、域外を超えたネットワークにあると思います。参加者は、当然、経費に見合う対価やサービスを求めています。

今後も人を呼べるイベントにするために、自転車はもちろん、地域の食やボランティアの質の向上など人的ネットワークを活用して、自転車を使った地域活性化に貢献していきたいと考えています。

ツール・ド・おおすみ実行委員長 **東久保 英昭**さん